

～HARUNA 第3戦 REPORT～

Class: X30 Tire: DUNLOP SL6
Engine: IAME X-30 Mechanic: 月岡雅隆
Frame: BIREL RY30S4

RESULT

全7台
TT: 3位(39.6)
予選: 5位(39.4)
決勝: 3位(39.4)



本レースを迎えるにあたり

前回のSUGOではレースウィークのみではコースを習熟する事が出来なかったため、榛名も6年振りに走るという事もあり、レース1週間前に大内さんにも協力して頂きテスト走行してレースウィークを迎えました。

その甲斐あって、気持ちに余裕を持ってコース入りが出来た事、前日走行では全日本FS-125クラスでトップ争いをしている平選手、渡辺選手とも引けを取らないペースを刻む事ができたので自信を持ってレース当日を迎える事が出来ました。

課題はNEWタイヤを生かす事！！

公式練習では前日に履いていたタイヤでコースイン、まずまずのラップで走行できましたが、TTでは『今回こそNEWタイヤを生かすぞ！！』と強く意識するあまり、変に力が入ってしまいカチコチになっていました。

自分でもカチコチになっている事は自覚していて何とか解きほどこうと戦っていましたが、結局最後まで緊張を取り去る事ができず悔いの残るTTでした。

とにかく前でレースがしたい！！

予選はスタートを無難に決めて、とにかくトップ2台に絡むレースをする事を目標に挑みましたが、またしてもスタートで失敗(スタートが前々から課題)し、足立選手・柳田選手に先行されてしまい、終始柳田選手とバトルするというSUGOの予選と全く同じ展開になってしまう。(全く進歩無し)ラップタイムでは0.3秒速かったが、ギヤの選択をミスリ立ち上がらないので抜くのには手間取り、最終的には接触しながらのパッシングとなりシャフトを曲げて結局抜けないという散々たる予選となりました。自分ではフェアに抜いたつもりだったのでゴールした時は正直イラっとしてしまいましたが、相手も抜かれたく無いと頑張るのは当然であり、相手に隙があると思わせる様な不完全な抜き方しか出来なかった自分が悪いのに、イラっとしてしまったのは反省点です。そもそもスタートで失敗していなければ、不必要なバトルをせずに済んだ、トップから大きく離されなくて済んだので、やはりスタートは改善すべき大きな課題だと思います。

気持ちを切り替えて、とにかく無事に完走する事！！

予選では立ち上がり鈍くレースが辛かったので、その辺りを改善したセットで決勝に挑みました。課題のスタートは上手いっただとは言えないがポジションキープ。

その後、柳田選手とバトルしている間に前が少し開いてしまい、前方を走る足立選手にストレート1/3ほど離されていたので詰めるのに5LAP程かかってしまいました。

何とか追いついて3でパス。しかし、その地点でトップ2台ははるか前にいるので、何か起こらない限り追いつかない状況でした。結局、トップ2台とは一度も絡めずレースを終えました。

課題

・NEWタイヤを生かすこと ・スタートを無難に決めること ・ロスなくバトルすること

最後に

レースウィークを通して、チーム赤坂の皆様、チームジャンキーの皆様、メカニック月岡さん、準備からフォローして下さった加藤さんをはじめ その他多くの方々の支えがありレースをする事ができた事に感謝しております。 ありがとう御座いました。